

平成 25 年度 事業報告書

(平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)

目 次

I 法人の概要

- 1 法人の名称
- 2 法人の所在地
- 3 認可年月日
- 4 沿革及び学園の組織
 - (1) 学園の沿革
 - (2) 学園の組織
 - (3) 役員及び監事・評議員の氏名及び役職名
 - (4) 設置する学校の名称及び所在
 - (5) 設置する学校・園等の入学定員及び学生数の状況
 - (6) 設置する学校・学科等教員数の状況

II 事業の概要

III 財務の概要

学校法人 三浦学園

I 法人の概要

1 法人の名称

学校法人 三浦学園

2 法人の所在地

東京都品川区豊町二丁目 16 番 12 号

3 認可年月日

昭和 26 年 3 月 9 日

4 沿革及び学園の組織

(1) 学園の沿革 (別紙参照)

(2) 学園の組織 (別紙参照)

(3) 役員及び監事・評議員の氏名及び役職名

①理事・監事

(平成 26 年 3 月 31 日現在)

役職	職名・担当職務	氏名	現職
理事	理事長	三浦 洋義	学園長兼務
理事		原 聰介	有明教育芸術短期大学学長
理事	(学外)	志賀 平治	学園評議員
理事	(学外)	森戸 由久	創価女子短期大学名誉教授
理事	(学外)	箭本 隆志	(株)インフォービス代表取締役
理事	(学外)	井上 嘉明	井上税務会計事務所長
監事		朝倉 和行	(株)朝倉代表取締役
監事		北村 光治	(株)キタムラ地所代表取締役

②評議員

(平成 26 年 3 月 31 日現在)

役職	職名・担当職務	氏名	現職
評議員		三浦 洋義	学園長・理事長
評議員		志賀 平治	学園理事
評議員		志澤 徹	弁護士・志澤綜合法律事務所
評議員		石井 永美子	理事室付
評議員		井田 良克	日本音楽高等学校長
評議員		新井 清	日本音楽学校同窓会副会長
評議員		平井 キミ子	日本音楽高等学校同窓会監査
評議員		橋爪 弥生	日本音楽高等学校同窓会幹事

評議員		中山 珠代	日本音楽高等学校同窓会幹事
評議員		根岸 順一	法人本部事務局長 有明教育芸術短期大学事務局長
評議員		中西 菊乃	有明教育芸術短期大学事務局次長

(4) 設置する学校の名称及び所在地

名称	所在地
有明教育芸術短期大学 子ども教育学科 芸術教養学科	〒135-0063 東京都江東区有明二丁目9番2号
日本音楽高等学校 普通科（幼児教育コース） 音楽科（音楽コース） （バレエコース） 〈舞台芸術コース〉	〒142-0042 東京都品川区豊町二丁目16番12号
日本音楽学校幼稚園	〒142-0042 東京都品川区豊町二丁目16番12号
日本音楽学校保育園	〒142-0042 東京都品川区豊町二丁目16番12号

(5) 設置する学校・園等の入学定員及び学生数の状況

〈平成25年5月1日現在〉

	入学 定員	収容 定員	学生生徒 現員数	平成25年度 入学者数
				名
有明教育芸術短期大学	名	名	名	名
子ども教育学科	100	300	212	108
芸術教養学科	90	180	60	28
日本音楽高等学校	100	300	220	91
普通科（幼児教育コース）	30	90	45	15
音楽科（音楽コース）	70	210	48	20
（バレエコース）			81	37
〈舞台芸術コース〉			46	19
日本音楽学校幼稚園	35	150	96	34
日本音楽学校保育園	9	26	29	8

(6) 設置する学校・学科等教員数の状況

①短大教員

(平成 25 年 5 月 1 日現在)

学科等	教授	准教授	講師	助教	助手	合計	兼務者
有明教育芸術短期大学							
子ども教育学科	4	4	2	1	0	11	52
芸術教養学科	7	2	2	0	0	11	
合計	11	6	4	1	0	22	総計 74

*学長・副学長は教授に算入

②専門学校・高校・幼稚園・保育園教員

(平成 25 年 5 月 1 日現在)

設置校名	専任教諭・保育士	兼務者
日本音楽高等学校	16	44
日本音楽学校幼稚園	6	0
日本音楽学校保育園	12	0

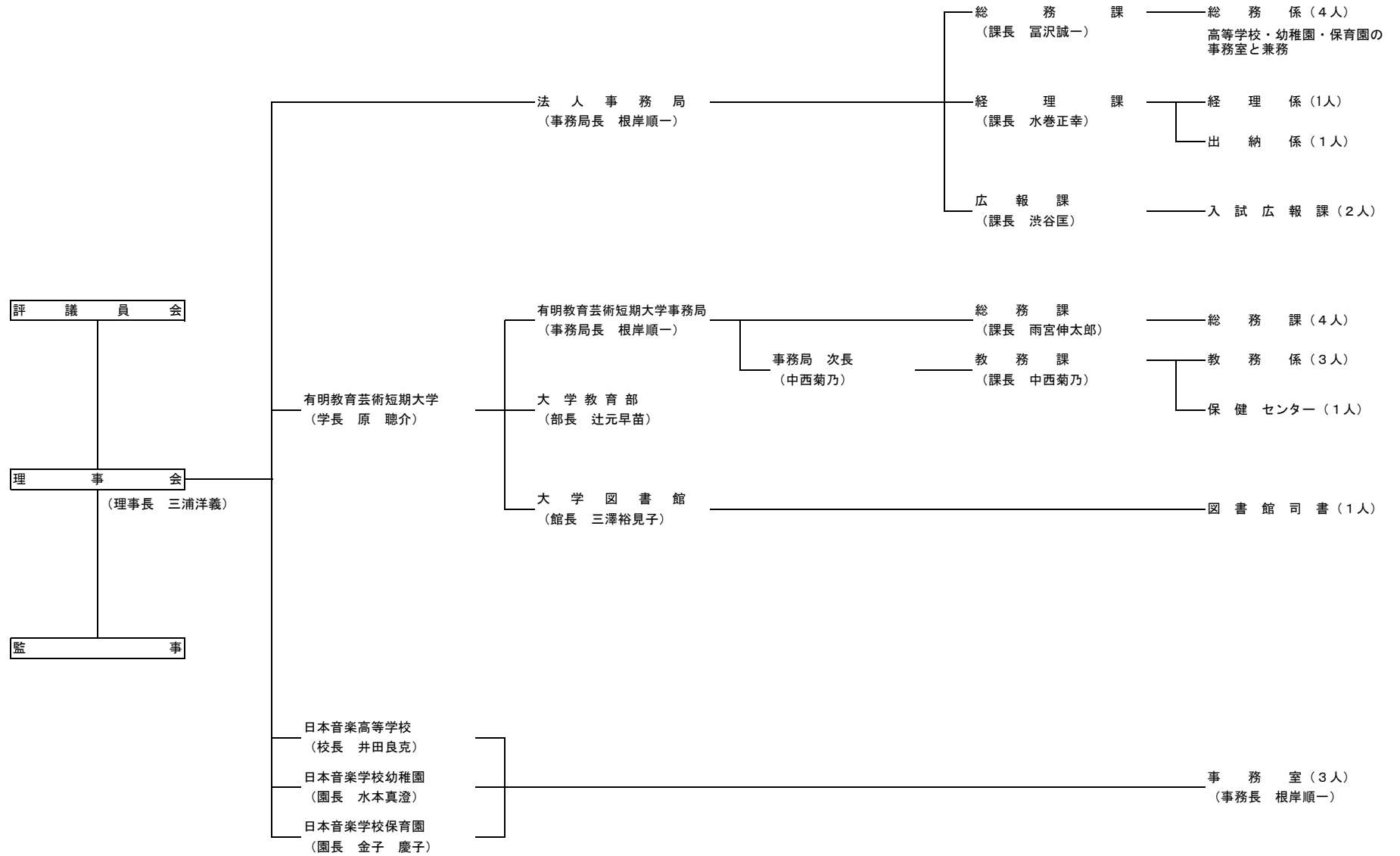
Ⅲ 財務の概要 別紙資料の通り

I - 4 - (1) 学園の沿革

法人の沿革	明治36年	山田源一郎により我が国初の私立音楽学校「音楽遊戯協会」として神田淡路町に創立
	明治39年	女子音楽学校(女子)・日本音楽協会(男子)に名称変更
	大正12年	校舎を中野打越に移転
	昭和2年	日本音楽学校に名称変更。創立者・初代校長 山田源一郎死去
	昭和22年	校舎を品川区豊町に移転
	昭和24年	日本音楽学校附属幼稚園および日本音楽学校附属入新井幼稚園を設置
	昭和25年	日本音楽学校附属豊小学校、日本音楽学校附属豊中学校、日本音楽高等学校を設置
	昭和28年	日本音楽学校に我が国初の教員養成機関(中学校音楽教諭養成科)を設置し、文部大臣の指定認可を受ける
	昭和29年	日本音楽学校に文部大臣指定の幼稚園教諭養成科を設置
	昭和36年	日本音楽学校附属入新井幼稚園を廃止
	昭和47年	日本音楽学校に厚生大臣指定の保育養成科を設置
	昭和53年	日本音楽学校が専修学校に認可
	昭和63年	日本音楽学校創立85周年事業の一環として2号館校舎(教室、中ホール)竣工
	平成4年	日本音楽学校創立90周年事業の一環として三浦記念館(大ホール、幼稚園舎、視聴覚教室、特別教室)竣工
	平成5年	三浦洋義理事長及び学園長に就任
	平成7年	日本音楽学校附属豊小学校及び日本音楽学校附属豊中学校を廃止
	平成9年	日本音楽学校にレクリエーション・インストラクター資格者と児童厚生指導員の養成課程設置
	平成11年	厚生大臣指定東京聖星社会福祉専門学校(介護福祉学科)設置
	平成13年	日本音楽学校保育園設置
	平成15年	日本音楽学校創立100周年
平成20年	有明教育芸術短期大学 認可(10月31日)	
平成21年	有明教育芸術短期大学子ども教育学科及び芸術教養学科の二学科で開学	
平成22年	日本音楽学校を廃止 日本音楽学校附属幼稚園を日本音楽学校幼稚園に園名変更	
平成23年	日本音楽高等学校 音楽科「舞台芸術コース」設置 東京聖星社会福祉専門学校を廃止	

I - 4 - (2) 学園の組織

(平成26年4月1日現在)



II 事業概要

平成 25 年度 有明教育芸術短期大学 事業報告

1. 教育活動

(1) 通常の授業

・通常の時間割及び大学暦に従って授業を行い、実施上に特段の問題はなかった。

(2) シラバス書式の一部改訂

・学習の到達目標が一層明確になるよう、書式を一部変更した。

(3) 出席率低い学生に対する指導

・欠席が多いため単位取得が困難になり、退学に至るケースがあることを踏まえつつ、3 回以上の欠席者に対して、教務委員及びクラス担任による学期ごとの継続的指導を行った。

(4) 新入生宿泊研修

・毎年行っている新入生の宿泊研修を静岡県伊東市 Anda において実施した。

(5) 学生指導

・大学構内における学生の行動に指導すべき事項があり、指導した。特に、喫煙に関する指導（学内喫煙の禁止）及び、図書館内の行動に関する指導（静謐の維持、飲食の禁止等）を行った。

(6) FD 活動

・学生の授業外学習が少なく、短期大学設置基準に定める要件にそぐわない状況があり、その改善のため、FD 委員会では、宿題を伴う授業実践を呼びかけている。このことにかかわって、授業担当教員に対するアンケートを実施した。なお、授業外学習の少なさについては、我が国の大学教育における通弊とされるところであるが、本学ではそのことをとりわけ深刻に受け止めその改善を大きな課題としている。

・学生による授業評価をふまえ、評価の高い授業の見学を行い、授業の方法等について研究した。今後、参加者の増加について課題が残った。

・自己点検・評価委員会と共同し、外部講師を招いて自己点検評価のあり方をテーマとする全学講習会を行った。

2. 研究・研修活動

(1) 研究紀要第 5 号の刊行

・研究紀要編集作業のスケジュールを短縮し、第 5 号の年度内刊行を実現した。

(2) 文科省科学研究費補助金による研究

・研究代表者を本学教員とする平成 25 年度分の実施は以下のとおりである。

① 若手研究 B「日中の幼稚園の成立と展開に関する比較史的研究」

研究代表者 日暮トモ子（子ども教育学科准教授）

② 若手研究 B「保育者養成における劇表現指導法」

研究代表者 山本直樹（子ども教育学科准教授）

③ 基盤研究 C「江戸～大正期の常磐津節演奏家研究」

研究代表者 前原恵美（芸術教養学科教授）

(3) 教員の各種研修（研修届 135 件）を行った。

3. 学生支援

(1) 学園祭活動

・本学の学生による教育課程外の集団活動は必ずしも活発ではない。学生数の少なさや活動場所の困難によるほかに、活動への刺激や機会の乏しさがある。学生活動の活性化は、正規の授業を含む大学の教育活動全体の活性化につながると考えられる。その主要な契機となる学園祭行事の活動に費用を提供して、支援した。

(2) 修学支援

・授業料の減免制度（学則第 67 条）及び入学金の減免制度（学則第 68 条）により、学生の修学支援を行っているが、そのほかに、高大連携関係の学生募集にかかる学納金減免措置等があり、その全体を見直した。

(3) 就職活動支援

・適切な労働観を養うための、主に芸術教養学科学生を対象とする就活セミナー、また、主に子ども教育学科学生を対象とする就職試験対策講座を開いた。なお、就職内定率は、子ども教育学科 97.1%（4 月 14 日現在）、芸術教養学科 65.2%（3 月 20 日現在）であった。

・就職ガイドブックを増補修正した。

4. 管理業務

(1) 管理職の交代

・学長及び図書館長の交代があった。

(2) 教員の人事

・船員教員 4 名の退職者があり補充の人事を行った。

(3) 芸術教養学科学生募集停止の決定

・平成 27 年度以降の学生募集停止を決定した。

(4) 子ども教育学科入学定員の変更

・平成 28 年度以降の入学定員を 130 とすることを決定した。

(5) 教員人事管理

・前年度の生じた専任教員数の欠陥の補充を行った。研修、社会活動、他学における非常勤講師等、教員の学外活動について適正な管理を図った。

(6) 情報管理

・公式ホームページを含め、各種データの更新及び管理を行うとともに、管理システムの整備の必要を確認した。

(7) 人権環境の整備

・人権啓発リーフレットを作成し、配布した。

(8) 自己点検・評価

・学則第4条の規定に則り、教育研究、組織運営及び施設設備等に関する点検評価を絶えず行ってきたが、部分的作業に終わっていた。平成27年度に予定されている認証機関による外部評価に向けて、同第19条に定める自己点検・評価委員会を始動させ、全体的作業に入った。

(9) 施設設備管理

- ・4件の施設貸出しを行った。
- ・施設の清掃、植栽の手入れ等、通常の作業を行った。
- ・PCの入れ替えを行った。

5. 対外活動

(1) 学生募集活動

- ・ホームページ上の入試情報を更新整備した。
- ・オープンキャンパス（入学相談会含む）を14回行い、参加数延べ610人、実数262人があった。参加者中114名の出願があった。
- ・入学者数は、子ども教育学科100名、芸術教養学科36名であった。
- ・Facebook、Twitterの媒体を用いて、学生による同世代高校生に対する広報の工夫を試みた。

(2) 高等学校との協力関係

- ・日本音楽学校との教育連携があった。入学者6名があった。
- ・特別提携校（都立篠崎高等学校）との教育連携があった。入学者10名があった。
- ・近隣校との教育連携があり、出張授業（6校）、本学に迎えての授業見学会（3校）を行った。

(3) 地域社会へ向けて公開講座等

- ・子ども教育学科主催の公開講座
 - ① シンポジウム「インクルーシブ教育システムについて考える－現状と課題」
 - ② 子育て講座「音楽遊び～音楽をとおして感性豊かな子どもを育てる～」

- ・芸術教養学科主催の公開講座
 - ①「有明シアター夏～今の小劇場の今～」
- ・子ども教育実践総合センターによる子育て支援活動
 - ① 親子サロン；1歳4か月以上の幼稚園未就園児と保護者を対象とする親子の交流支援を月2回実施
 - ② 第1回子育て講座「親子で楽しい運動遊び」
 - ③ 第2回子育て講座「音楽遊び～音楽をとおして感性豊かな子どもを育てる～」(子ども教育学科と共催)
- ・近隣の学校等における本学教員の講演・講習等 47 件

平成25年度 日本音楽高等学校 事業報告

I 目指す学校経営 この目標を達成するためにIIの通り実施した。

II 平成25年度の取組み

1 生徒募集への積極的な取組み 平成26年度入学者数等

・入学者数(68名)の内訳		応募者数	93名	受験者数	93名	合格者数	91名
幼児教育	A 6(11)	B 0(0)	一般 5(4)	合計	11(15)		
音楽	A 11(9)	B 0(0)	一般 5(11)	合計	16(20)		
バレエ	A 17(30)	B 0(2)	一般 5(5)	合計	22(37)		
舞台芸術	A 12(13)	B 3(0)	一般 4(6)	合計	19(19)		
合計	A 46(63)	B 2(2)	一般 19(26)	合計	68(91)		

- ・目標の100名の実現が出来ず、昨年度の91名にも届かなかった。
- ・昨年度よりも都内生徒が19名減少(43名から24名)、バレエコースが15名減少(37名から22名)、幼児教育コースが4名減少(15名から11名)、音楽コースが4名減少(20名から16名)などにより全体で23名減少(91名から68名)した。
- ・平成27年度の募集においては、都内生徒の増加、バレエコース、幼児教育コース、音楽コースの増加と舞台芸術コースを20名以上確保すること等が必要である。

2 入学選抜の適正な実施

- ・入学選抜に係わる試験問題の検討と作成及び願書の受付から合格発表、入学手続きまでの入学選抜に係わる進行管理は適正に行われた。

3 高校生活への満足度が高く健康で明るく礼儀正しい生徒の育成

- ・原則に基づきつつも柔軟な指導で高校生活への満足度を高め、非進級者数0を目指して先生方による丁寧な指導が行われた。0は実現できなかったが、昨年度の非進級者数13名より少し減少させる事が出来た。0の実現を目指す事が必要である。

- ・平成25年度の次学年への非進級者数は(3年は非卒業者数)

1 幼1名、1 音2名、1 バ2名、1 舞3名 (+1)	1年8名 (4月1日付在籍91名)
2 幼2名、2 音0名、2 バ1名、2 舞0名	2年3名 (4月1日付在籍70名)
3 幼0名、3 音0名、3 バ0名、3 舞0名	3年0名 (4月1日付在籍59名)
合計幼3名、音2名、バ3名、舞3名 (+1)	全体合計11名 (+1)

- ・HR等での教育愛のある細やかな指導を通して生徒の環境の美化に取り組む姿勢が向上した。引き続き校則を守らせる指導を学校として進める事が必要である。

4 基礎的な学力の定着及び生涯学習の意欲の向上と希望の進路を実現する学力の養成を図る

- ・生徒の興味関心を喚起し理解度を高め学ぶ意欲を向上させる授業の改善に組織的に取り組む方法の一つとして、年に2回生徒による授業評価を実施し、その結果に基づき教員全員での研修会を2回行った。各教員が個人の結果に基づき、課題と改善の具体的な方法を報告しそれに基づき意見の交換を行い授業の改善方法についての共通認識を図った。生徒へのより真剣な授業評価への取り組みが今後の課題である。

- ・平成25年9月18日(水) 教員研修会(1回目)
- ・平成26年1月29日(水) 教員研修会(2回目)
- ・基礎的な学力の向上と定着のために朝学習を実施した。
月曜日から金曜日までの5日間と必要に応じて土曜日に音楽を実施
実施時間は午前7時40分から8時10分までの30分間
国語 火(実力) 木(基礎) 数学 月 英語 水(実力) 金(基礎)
音楽 土 1回300円を授業者を支払う。
国語 森田教諭67回 奥山教諭67回 数学 伊庭教諭21回 英語 菅沼教
諭60回 児玉教諭60回 音楽 松田教諭16回 小川教諭10回 実施した。
- ・今年度は、国語と英語において、基礎学力の定着と実力の養成に分けて曜日を設定
したが、参加者数は少数であった。
- ・学習意欲の喚起と持続的で自主的な学習習慣を定着の工夫を行い、来年度も学習の
場としての朝学習の機会は設けたい。
- ・希望の進路の実現を目指し、学力の向上のために放課後と夏季休業日に講習を実施した。
1コマ(90分)1000円を授業者を支払う。(講師を除く)
第一期 平成25年7月25日(木)、26日(金)、29日(月)、30日(火)
第二期 平成25年8月22日(木)、23日(金)、24日(土)、26日(月)
7月25日(木) 国語(実力、応用)、世界史B、数学
7月26日(金) 国語(実力、応用)、世界史B、数学
7月29日(月) 国語(実力、応用)、世界史B、数学
7月30日(火) 国語(実力、応用)、世界史B、数学
8月22日(木) 日本史B、英語(実力、応用)
8月23日(金) 日本史B、英語(実力、応用)
8月24日(土) 日本史B、英語(実力、応用)
8月26日(月) 日本史B、英語(実力、応用)
森田教諭90分×4コマ 奥山教諭90分×4コマ
塚本教諭90分×4コマ 伊庭教諭90分×4コマ
菅沼教諭90分×4コマ 児玉教諭90分×4コマ
鈴木講師90分×4コマ (出講票にて対応)
- 5 一歩進んだ自己実現を図る系統的で組織的で個に応じた進路指導を実施
- ・各学年とも年間計画に基づきそれぞれの企画が実施された。
学年全体での企画として、面接への対応についての指導、進路ガイダンスと受験体験報
告会を実施した。
- ・面接への対応についての指導の実施
平成25年6月21日(金)6校時 3年生対象
講師は株式会社さんぼうの西村旬仔先生
- ・進路ガイダンスの実施
平成25年12月14日(土)2,3校時 1,2年生対象
2校時 株式会社さんぼうによる入試に向けた全体的な説明会

3校時 有明教育芸術短期大学の説明会（短大希望者を含む）
四年制大学希望者は大学のパンフレットに基づき調べ学習

・受験体験報告会

平成26年3月8日（土）1校時 1, 2年生対象

今年度の各コースの卒業生一人ずつ、合計4人に受験に向けた高校での学習などを含めた高校での生活の話しをしてもらった。それぞれの話しを1, 2年生は真剣に聞いていた。

一步、二歩進んだ進路希望を立て、実現のための具体的な行動を起こす様に個別の指導を含めて計画的に進路指導を引き続き行うことが必要である。

話しをしてもらった卒業生

幼児教育コース 小林愛佳（有明短大子ども教育学科）

音楽コース 石井桐花（昭和音大声乐科給費生）

バレエコース 直木美枝（昭和音大アートマネジメントコース）

舞台芸術コース 片桐稀美（桜美林大総合文化学群演劇コース）

・平成25年度卒業生の進路状況は次の通りである。

・幼児教育（12名） 大学3 短大4（内 有明短大4） 専門学校4
未定1

・音楽（11名） 大学7 短大1 専門学校3

・バレエ（25名） 大学6 短大8 専門学校3 未定8

・舞台芸術（11名） 大学3 短大2（内 有明短大2） 専門学校3
未定3

・全体（59名） 大学19(32.2%) 短大15(25.4%) 有明短大6(10.2% 短大に対する割合40.0%) 専門学校13(22.0%) 未定12(20.3%)

・今年度は有明短大への進学予定者が6名と少なかった。幼児教育コースの短大希望者は全員有明短大への進学を予定しているが、他のコースで幼児教育関係の短大へ進学予定していたり、幼児教育コースで短大ではなく保育関係の専門学校へ進学予定の生徒に対する有明短大への進学指導をオープンキャンパス、有明祭などへの参加を積極的に勧める指導を強化することが必要である。

6 学校生活への充実感を高める部（クラブ）活動の活性化

・合唱部、吹奏楽部、演劇部、ダンス部、バドミントン部、フットサル部、バレー部などの活性化

・合唱部 NHK全国学校音楽コンクール東京都予選金賞、本選奨励賞受賞

スクエア荏原オープニングセレモニーへの参加し、開館記念レセプションで「品川区民憲章の歌 We hope for happiness」を歌い、開館記念イベントで歌と演奏を行った。

品川区区民祭ティーンズコンサートで全体司会、演奏を実施

大森ベルポートでの第九の合唱など

・ダンス部 第60回東京都高等学校ダンス発表大会で最優秀賞受賞

第66回全国中学校高等学校ダンスコンクールに出場

- ・フットサル部 大会に参加

平成26年3月9日(日)の三年生参加の最後の大会では出場チーム中の最下位ではなく参加した生徒も自信をつけ今後の活動への意欲を高めた。

- ・吹奏楽部 校内での積極的な演奏活動を行った。(入学式、卒業式、日音祭、総合的な学習の時間の舞台発表(サウンドオブミュージックの上演))
- ・演劇部 東京都高等学校演劇連盟山手城南地区発表会に参加

7 研修の充実…生徒の学習意欲の喚起、学力の向上、円滑な学級経営、分掌運営のできる教員の育成

- ・平成25年7月22日(月) 川合正先生による教員研修会を実施
- ・平成25年9月18日(水) 生徒による授業評価に基づく教員研修会(1回目)
- ・平成26年1月29日(水) 生徒による授業評価に基づく教員研修会(2回目)
- ・各分掌の会議、学年会などで具体的な生徒指導に係わる事例の報告があった場合には時機を逸することなく機敏に全教員で情報を共有するように朝の打ち合わせも含め行った。
- ・担任の生徒指導、保護者対応に対して、校長、教頭を含め、教員全体がいつでも支援できるようになるために、外部講師による教員の研修の機会を引き続き設けたい。
- ・生徒による授業評価に基づき、教員全体での研修会を行うなど、一人ひとりの教員の授業力の向上に努め、生徒の授業への興味関心の喚起と理解度の向上を図った。
 - ・赤点を取った生徒への効果的な指導法について、朝学習、放課後講習の実体のある活用を含め、具体的な方策を指導法を含め引き続き検討する。
 - ・授業への興味関心を高め、学習意欲を喚起するために教材研究や授業方法の工夫などが一人ひとりの教員によって進められている。今後はその実践報告を含め、研究授業の実施等も検討したい。

8 開かれた学校づくり…外部へ本校の教育内容と生徒の良さを積極的に広く情報提供

- ・学校運営連絡協議会の実施

平成25年6月25日(火) 実施

出席者は

(外部委員)	保護者代表	渡邊純絵(父母と教師の会会長)
	同窓会代表	橋爪弥生(同窓会幹事) 欠席
	地域関係機関代表	井上好嗣(品川区立荏原第一中学校長)
	地域社会代表	綱嶋信一(品川区商店連合会副会長)
(内部委員)	校長	井田良克
	教頭	松本幸浩
	事務局長	根岸順一

- ・学校側から、本校の概要、教育活動の計画、魅力ある本校の教育内容、募集状況などについて説明した。募集を含めて本校への支援、協力を要請した。
- ・その後の情報交換の中で、地域の中に積極的に出てくる様になり日音の知名度も上がり、評判も良く成ってきているとのご意見を頂いた。今後も地域に出てきて更に日音、日音生の良さを伝えるために場所や機会の提供を続けるのご意見も頂いた。

- ・本校の公開行事への地域の方の参加も増えてきており、更に定着させ、中学生の入学の増加に繋げる方法の一つとして、来年度も年間一回開催する予定である。
- ・生徒の地域での活躍
 - ・3年幼児教育コース ゆたか児童センターで赤ちゃんとの触れ合い講座に年間6回参加（全体12回）。企画にも関わりクリスマス会などを実施した。
参加した赤ちゃんの母親から本校生徒へのお礼の気持ちと励ましがアンケートに寄せられた。
 - ・第63回品川区社会を明るくする運動中央大会で表彰された。
平成25年7月26日（金）品川区立総合区民会館（きゅりあん）
 - ・スクエア荏原オープニングセレモニーへの参加
開館記念レセプションで「品川区民憲章の歌 We hope for happiness」を歌った。
開館記念イベントで歌と演奏を行った。
スクエア荏原にて、平成25年3月24日（日）
 - ・品川区民芸術祭ティーンズコンサートに参加
全体の司会と金管アンサンブルの演奏を行った。
スクエア荏原ひらつかホールにて 平成25年10月27日（日）
 - ・品川区民芸術祭区民作品展に生け花を出品
スクエア荏原ひらつかホールにて、平成25年11月13日（水）から
11月17日（日）
 - ・品川区民まつりにボランティアとして参加
品川区立戸越台小学校にて 平成25年7月27日（土）
 - ・品川区幼保小中高ふれあい交流会に参加（本学園の幼稚園と一緒に）
品川区立三木小学校にて 平成25年12月19日（木）
 - ・大森ベルポートで第9を歌おうに参加
今年度で五年連続参加し、本校生徒の演奏の時間もいただいている。
大森ベルポートにて 平成25年12月23日（月）
- ・授業、学校行事の積極的な公開
 - ・授業参観 平成25年12月12日（木） バレエコース、舞台芸術コースの特別レッスンの日に合わせたこともあり、保護者が参観し、授業内容についての好印象をアンケートで述べている。
 - ・日音祭 平成25年6月16日（日）
 - ・バレエコースによるコンサート（学校説明会と併せて） 9月14日（土） 初めての音楽コースとのジョイントコンサートとしたが参加した中学生、保護者からの評価は高かった。
 - ・総合的な学習の時間の舞台発表（サウンドオブミュージックの上演）
10月12日（土） 11回目の上演で、会場内に大きな感動を与えた内容。
 - ・舞台芸術コースの発表会（学校説明会と併せて） 10月26日（土）
 - ・音楽コースのコンサート（学校説明会と併せて） 11月30日（土）

- ・卒業公演 平成26年2月22日(土) 舞台芸術コースの一期生の初めての公演を含めて4コースの公演が行われ、立見が出る程参加者が多く内容についても好意的な評価がほとんどであった。
- ・学校施設の開放
 - ・平成25年度品川区立中学校PTA連合会活動発表大会
平成26年2月1日(土) 午後1時から5時 本校三浦記念ホールにて
中島豊品川区教育長も挨拶に来られ、活発な発表が行われた。
本校の学校案内と本校の品川区での活動内容を記載したA4版1枚の資料を全参加者に配布した(約150部)
大会の開始の冒頭で井田校長から本校の概要説明を行った。
品川区立中学校長会の会長の米塚裕貴浜川中学校長の挨拶の中で本校の特色についても触れていただいた。

平成25年度 日本音楽学校幼稚園 事業報告

平成25年度の幼児教育を取り巻く環境は、国が進めている「幼稚園教育」と「保育園」とを一体にした「認定子ども園」構想が本格化してきました。しかし、細かい点については平成27年度の施行を目ざして、区からの説明がこれから始まるという状況です。品川区私立幼稚園協会としては、積極的な動きはありません。

当園の家庭状況は例年に比べ、預かり保育の月決め利用児の増加です。理由は就労する母親が増えた事と子育てに不安を抱えている親が多くなった事などがあげられます。

2歳児教室、園庭開放の希望者も多くありますので、預かり保育の充実と合わせて近隣の皆様の希望が達せられるような対策も必要になってきました。

又、小学校教育の進みの速さや多様な取り組みを考えると、幼稚園から小学校への円滑な接続が出来る様に連携を強化し、自立への基礎基本を幼児期に身に付ける必要を痛感しています。よって、平成25年度の事業報告は下記の通りとなりました。

1 子どもへの育ちへの年間教育重点目標に対する報告

- 平成25年度は心身の健康に関する領域より・・・「健康」を重点目標としてきました。
 - ・ 心の健康については、年々、毎日の気持ちの変動が多い子が増えているように感じてきました。そこで、家庭での子への接し方や保護者の健康状況の把握などに力を入れる事により改善の傾向にあります。今後とも保護者との連携がかかせぬ状態です。
 - ・ 身体の健康については、養護教諭の児島先生の指導もあり、「健康カード」の発行により、子ども健康状況の把握が早めに出来、流行性の病気による「園の休園」もせずにごすことができました。
 - ・ 教員も運動面、衛星面にも力を入れており、少しずつ成果が上がってきていると思います。

2 教員の資質向上への取り組みについての報告

- 研修への参加、報告（園内、外部）
 - ・ 園内での研修を朝の打ち合わせの時間を有効に利用し、日々研修であるように取り組んできましたが、園内研修の時間は別に設けるようにしていかなければと思います。
 - ・ 外部研修は「特別支援」の研修や品川区私立幼稚園協会主催の「研修」には参加してきましたので日常の保育の中では役立っています。
 - ・ 園行事と重なること、教員数に余裕に無いことなどがあり、他の研修への参加は難しいのが現実ですが、各自の教員が自分の課題をみつけ、自らの学びが必要だと考えています。

3 園と保護者とのつながりについての報告（含 預かり保育）

- ・子ども達の教育環境を良くしていくには、保護者の園活動への理解や協力がどうしても必要です。保育参観、懇談会、公開保育、個人面談、家庭教育学級などを通し、働きかけていますが、長時間預かり保育を利用する保護者が増えてきた事により、難しい面もみえていますので、この点がこれからの課題だと思います。
- ・預かり保育専任者と担任との連携は細やかにする事により効果をあげてきました。
例：預かり保育のお迎えの時間に「個人面談」や「連絡事項の説明」などを実施し園活動や子どもへの理解を深めてもらえるように働きかけている。

4 幼稚園と小学校との連携についての報告

三木、戸越小学校とは給食体験、ふれあい交流会、就学时連絡会などと連携が出来てはいるのですが、就学児が増えてきた「豊葉の森一貫校」との交流はお互いの行事が合わず、出来ぬままになっていますので、この点は改善して行きたいと思います。

5 評価についての報告

園活動、教員の資質向上のためには下記の事柄が必須となっています。

- ・外部評価の実施が実現していません。

6 平成26年度入園募集への取り組みについての報告

近隣の私立幼稚園の多くは有利にて2歳児入園を実施し、3歳児入園につなげていますので、2歳児の保育を有料にて強化してきましたが、在園児、卒園児関係の弟、妹が8名しかおらず、外部からの入園児を確保せざるを得ない状況となりました。

その、結果、2歳児教室を途中で抜ける子もあり（7月に入園の決まる園もある為）入園への確実な人数が不足しました。それにより再募集をせざるをえず、他園を落ちてきた子、長時間の預かり希望児、特別支援を要する子と保育への困難が予測される結果となりました。

○子育て支援として：園庭開放の実施 年間を通し 月1回 水曜日 無料

午前11時45分～午後12時30分

○2才児教室：当園入園希望児を月2回、保育料を徴収し実施

午前9時30分～12時 35名（2グループに分ける）

平成25年度 日本音楽学校保育園 事業報告

I 年間事業計画

1 基本方針

- ・日本音楽学校保育園は保育園の基本方針・保育目標・保育方針を基本に保育内容を検討立案し、一人一人の園児の発達に合わせながら日々の保育を実践してきた。又、日本音楽学校がめざす建学の精神であるあいいうえお（愛情・意欲・うつくしい言葉・笑顔・思いやり）を大切にしてきた。
- ・認可園として、12年を迎え0歳児9名・1歳児11名・2歳児11名・計31名で保育を実施している。

2 保育実践

- ・園目標実現の為、保育課程を基本に・各クラスの指導計画のもと、個を尊重した保育を実施してきた。
- ・年間を通してわらべうた・手遊び・表現遊び・製作等を楽しみ、絵本・パネルシアター・エプロンシアター等に触れる体験を多く持つ事が出来た。子ども達の発達に合った職員による手作り遊具も用意し遊ばせることができた。
- ・公園での遊びもたくさん取り入れ、四季折々の自然に触れたり、いろいろな遊具で遊ぶことが出来た。
- ・天候等の関係で園外に行けない時は、朝のおやつ後ミニ集会を実施した。各保育士が創意工夫して、パネルシアター・寸劇・歌・リズム遊び等を実施し、毎回子ども達が喜びみんなで楽しんできた。
- ・数年取り組んできた室内の環境構成も、基本ラインが一定してきて、さらに子どもの安全と個々が興味を持って、自分の居場所を見つけじっくり遊べるように工夫を重ねてきた。結果、落ち着いて満足した遊びが展開されている。

牛乳パックで個々の椅子を作り座って遊べる環境にし、集団の中でも自分の居場所が保障されるようにしてきた。今後も保育時間が長いこども達にとって、どんな環境の中で生活し、安心して楽しく遊べ成長できるかを考えあって進めていきたい。

- ・2歳児は身近な野菜の栽培をして食に関心を持ったり、クッキングについては、アレルギー児に配慮した計画に切り替えて、皆で取り組める材料（サツマイモ・米粉）で楽しませた。3月には1歳児クラスも参加し、進級の期待にも繋がった。今後も年齢にあった内容を取り入れ、調理に協力を得ながら楽しませ、食への関心を高めたい。

3 地域交流

- ・全ての行事に地域の方をお誘いした。近年、入園前の見学者も多いので、行事への参加を呼びかけて保育園の様子を伝えたり、日常的に公園などでの声掛けや、ポスターを掲示し、気軽に足を運んでもらい、園児と一緒に楽しんでもらえるようにしてきた。とどらぁ祭では手作りの品物を手にした親子連れが喜んでいる光景が見られたり、近隣の保育園の参加もあり盛り上がった。ハロウィンでは、地域の方々とのつながりもあり、お菓子を頂いたり身近に親しく交流をさせてもらっている。お礼にこどもが制作した飾りを差し上げ喜んで受け取って頂いた。施設見学来園者・・・42名（出産前～2.2歳）
- ・保育園との交流は、二葉保育園・ゆたか保育園の泥んこ遊び・焼き芋・餅つきの行事に参加させてもらったり、園の行事では「ベンちゃんと遊ぼう」「とどらぁ祭り」「影絵」に来て頂いた。特に地域の保育園交流では、自園では体験できない多くの事を体験させて頂いて、卒園後にも繋がっている。
- ・ゆたか児童センターには0～2歳児が遊びに行っている。三ツ木児童センターでも遊ばせてもらった。

園にはない物があったり楽しみな場所にさせてもらっている。来館してきた地域の方との触れ合いの場にもなっている。図書館の利用もしている。

- ・高齢者との交流は園児の祖父母との交流実施。毎年楽しみに参加くださる。施設訪問は近所に施設がなく実施できないでいる。

4 職務分担・職員勤務形態

- ・各係は計画を立て職員会議や事務連絡表にて全職員に知らせ、計画に沿って実施することができた。
- ・今年も大きい行事や保護者会等の後には、保護者より感想を伺いとどらあだよりでお知らせした。
職員も親の思いが伝わるので、次の計画や保育内容に役立てることができた。いつも全員の協力が得られるので、園への思いが伝わり大切に引き上げたい。玄関の「ホットフォト」もその日の事がタイムリーに分かり、親子の会話に繋がっている。撮影も子ども達の様子が伝わるようにポイントをつかんで撮り、表情などいいショットが伝えられている。
- ・保育の充実で臨時職員（アルバイト）が入り、保育の補助や用務の仕事してもらった。
- ・0・2歳児クラスの保育時間が長いので、人数に応じたシフトの配慮をし、特に0歳児は夕方疲れも出てくるので十分受け入れられるように、職員同士連絡を取り合って保育を進めてきた。
- ・運営に関しては、事務所と連絡・相談しあい、十分確認しながら進めてきた。

II 研修（園内自主研修及び園外研修参加）

1 園内研修

- ・今年度の研修は、環境についていろいろと話し合ってきたことを、実際保育室にてコーナーを設定してみて、一人一人がじっくり遊び込める場所に整えられたかを確認する一年とした。結果、子ども達の遊ぶ様子から、コーナーの遊具に関心を持ってじっくり遊びこんだり、必ず登園すると好きな場所に行き、昨日の続きが始まる子、テーブルに座って「〇〇がしたい」と、要求できたり、子ども達の遊びの世界が広がっていることが見えてきた。その様子から、個々の発達にあった興味を湧く物をさらに工夫して遊びが楽しめるように話し合ってきた。
- ・特にごっこ遊びは手作りの物や、品数を揃えて生活の模倣遊びを楽しませてきた。植栽や飼育物も環境の大切な役割を果たすので、手入れの姿や飼育も一緒にしながら進めてきた。二歳児に牛乳パックの椅子を用意したことでじっくり座って遊ぶことにも繋がった。音楽もいつでも掛けてあげられるようにコンセントを工夫しラジカセを常時設定したので、環境に巾ができた。
- ・リズム遊び研修に参加・・・園で職員に還元して日常の保育やお楽しみ会の集会・運動会音楽会に取り入れて実践してきた。参加して実際、体験の中で教材を選べるので、子ども達に合った内容が選ばれたので今後も参加して保育内容を深めたい。

平成 25 年度 研修実施一覧

日本音楽学校保育園

<園外研修>

月日	研 修 名 研 修 内 容	講 師	時 間	参加者
5・23 (木)	赤ちゃんと子どものスキンケアセミナー	母子衛生研究会	13時～16時20分	曳地
6・4 (火)	「子育て支援新制度講演会」 ・ 子ども子育て支援新制度と就学前教育のあり方	吉田正幸氏	14時～16時	與崎
7・11 (木)	「子どもの発達について学ぶ」	岸井慶子氏	14時～17時	田中
7・29 (火)	「学研・夏の講習会」 ・ リズム遊び・歌・ダンスの実践	ケロポズ	9時～17時	曳地・芝崎
9・13 (金)	「親と子のいい関係をつくる」	増田修治氏	14時～17時	藤巻
10・5 (土)	「新沢としひこ・30周年コンサート」 ・ 子どもの歌と共に	新沢としひこ氏	13時30分～17時	曳地・秋山
11・8 (金)	「食育について」日本成人病予防協会 管理栄養士 大久保 幸子氏		14時～17時	安藤
1・26 (日)	「にじっこコンサート」 新沢としひこ・山野さと子 氏		10時～15時	安藤・芝崎 秋山
2・24 (月)	「子どもの虐待を考える」 CCAP・小児科医 松田博雄氏		18時30分～ 20時30分	金子
11・ ()	「一次救命処置」 AED・CPRの実習 日本音楽学校看護師 小島先生		13時30分～15時	全職員

年間保育内容（園児状況）・行事状況

一期（４・５・６月）

- ４月１日付、新入園児１１名が入園、２歳児クラス２名欠員・・・２９名で２５年度保育開始。
１・２歳児は一つ大きくなったことが嬉しい笑顔に繋がって、遊びの世界が広がって楽しんでいる。
- ・ アレルギー児・・・０歳（ミルクアレルギー１名）、２歳（卵・小麦粉１名）。
- ・ 各クラスとも新しい環境や保育士に慣れ安心して過ごせるように、環境等の工夫をした。
- ・ 年間を通して有明短期大学・高等学校の実習生・ボランティアを受け入れる。
- ・ ４月「はじめましての会」新入園児・進級児紹介、エプロンシアターや職員の自己紹介。
- ・ ４月「全体保護者会」園の基本方針や保育計画・行事予定等園長が説明する。その後職員・親子紹介・２歳児が歌を披露したりして、保護者とのコミュニケーションを図った。
- ・ ５月「こどもの日のお祝い」元気で丈夫に育つように・・・と願いを込めて相撲ごっこや職員手作りのパネルシアターを楽しんだ。各自のこいのぼり製作を持ち帰った。
- ・ ４月より「ベンちゃんと遊ぼう会」を開始（月１回２歳児中心に製作遊び）。
- ・ ５・６月「母の日」「父の日」・・・ファミリーデーとし手作り写真飾りをプレゼントする。
- ・ 交流保育・・・二葉・ゆたか保育園で砂菓、どろんこ遊び。ゆたか保育園を招き製作遊び。
- ・ ６月「保育参加」実施。日常保育の様子を知っていただき、食事提供や個人面談も行う（希望者のみ）。
- ・ 夏野菜の栽培（枝豆・絹さや・トマト・オクラ・サツマイモ）して、水やりを楽しむ。
- ・ 金魚・ザリガニ・カブトムシの幼虫等の飼育を見て、身近で生き物に触れる機会を作った。
- ・ 防災用品の見直しで、６号館に非常食品をまとめて保管し緊急時に備える。防災頭巾と避難靴・靴下のサイズ確認し、靴のサイズ不足分３足購入。
避難車２台購入

二期（７・８・９月）

- ７月１日付、３１名入園。各クラスすっかり落ち着きが出てきて、夏ならではの遊びでは、０歳児は温水プールから出たがらないほど大好きで、１歳はやや慎重だが、後半は水になれ楽しめた。２歳児は大好きなプール遊びを満喫した。サツマイモやかぶと虫の世話も積極的にできた。
- ・ ７月「プール開き」学生会館で実施。保育士による子どもとスイカのお姫様に扮して、プール遊びの約束事を寸劇で知らせる。スイカのプレゼントもあり大喜だった。
- ・ ７月「七夕の会」今年も、保護者から願い事を書いてもらった短冊と、笹飾りをして七夕を迎えた。職員が織り姫・彦星・星になり七夕の話をした。昼食の五色そうめんも良く食べ、おやつには星型のホットケーキなど好評だった。
- ・ ８月「プール閉め」子ども達と手遊びをしたり、職員がフラダンスを披露した。子ども達も一緒に踊って、楽しいプール閉じとなった。
- ・ ９月「お月見団子作り」２歳児が団子作りで初めてのクッキング体験をする。丸め方が皆上手だった。
- ・ ９月「敬老の会」園児祖父母１１名の参加。各クラスの出し物、職員のパネルシアター、２歳児クラスと触れ合い遊びを楽しんでいただく。茶話会では、折り紙で折られた入れ物に、『おもてなしのころね・・・』と、感心されるお言葉も頂く。孫の写真入りのファイルをプレゼントにして喜ばれた。
- ・ ９月「とどらあまつり」今年より学生会館とその横の中庭で実施。二葉・ゆたか保育園や園児も保護者も多数参加頂いた。盆踊りや手作りおもちゃの６舗（べんちゃんも一店舗参加）での買い物、カフェでは黒糖かりんとう・お茶が好評だった。夕方は御神輿や山車で近所を周り一日中祭り一色で楽しめた。二葉・ゆたか保育園や日音幼稚園（年少）の参加があったので盛り上がった。

三期（10・11・12月）

○ 0歳児は歩ける子も増え行動範囲が広がってきたので、大好きな公園や二階での遊びには十分注意しながらも探索活動をたくさんさせ、歩行の喜びを満たしてきた。1歳児は歩ける距離が長くなって、目的を持って公園までの散歩を楽しめるようになってきた。自己主張もはっきりしてきたので少人数での関わりを大切にしてきた。2歳児は行事をいろいろ体験し、自分から楽しんで参加する姿が多く、話をよく聴き行動が取れるようになってきた。どのクラスもリズム遊びが大好きで、保育の中でたくさん取り入れて楽しませてきたことが、表現の楽しさに繋がってきて、いろんな場面で披露しあっている。

- ・ 10月「運動会」晴天に恵まれ、157名の参加。毎年、保護者の方は競技に出ることを楽しみにして、積極的に参加されるので、とても盛り上がった運動会になった。片付けを多くの保護者が協力下さりとても助かった。今年のテーマ「音楽」をクローズアップした各クラスの出し物も、日頃の保育から選んだものなので無理がなく、のびのびできた。
- ・ 10月「ハロウィン」朝からそれぞれの仮装で盛り上がり、集会で紹介し合い楽しい会になった。今年はハロウィン飾りのバックで散歩し、外でお菓子を貰うイベントが喜ばれた。地域の方との交流もあり、お菓子も頂く。後日、お礼の手作りプレゼントを届ける。
- ・ 11月個人面談実施。各家庭の様子や園の生活、子育ての相談を進めてきた。
- ・ 11月「お楽しみ会」人形劇のみちくさの皆さんによる影絵。ゆたか保育園2～5歳児も参加。
- ・ 育てたサツマイモの収穫で、思ったよりたくさん芋が獲れ、ふかし芋で食べた。
- ・ 12月「小さな音楽会」今年は、一年間交流してきた高校生幼児コースの学生さんにも出演してもらい子ども達も親しみやすく、あたたかい音楽会になった。パネルシアター・管楽器・ピアノ演奏や、きれいな歌声が響き涉ったコーラスの後、子ども達も歌ったり、踊ったり堂々と発表できた。毎年ご家族で参加して楽しんでいるので、日本音楽学校保育園ならではの行事になっている。
- ・ 12月「クリスマス会」子ども達が製作したツリーを飾った会場に、サンタ登場。ダンスをしたり紙芝居のプレゼントに大喜び。職員のフルート・ピアノ演奏も加え楽しんだ。昼食の3種類のパンバイキングも喜んで食べた。おやつには手作りのケーキが出た。
- ・ 各クラスで手作り楽器を作り、いつでも手に取って音を楽しめるようにした。

・ 4期（1・2・3月）

- ・ 各クラス共こども達の大きな成長をしっかり受け止め、この一年の保育を振り返って、さらに保育内容の充実を図る。低年齢児園ながら、2歳児は自分の気持ちをしっかり伝えることができたり、いろいろ体験し、友達との遊びの広がりもみられ、特に製作には集中する。1歳児は言葉も豊かになり、行動も早く毎日の遊びを十分楽しんでいる。0歳児も月齢の高い子は、保育士と手を繋いで歩くことを好み、近所の公園から園までしっかり歩く。リズム遊び・絵本・手遊びが大好きで催促して楽しんでいる。

- ・ 1月「新年おめでとう会」今年は獅子舞を作って、登場させた。新年を迎えみんな健康で良い年になるように頭を噛んでもらった。保護者からも絵馬に願い事を書いてもらい紹介した。正月遊びやお正月にちなんだ絵本を読み、日本古来の遊びに触れた。
 - ・ 2月「豆まき会」『聞かせやけいたろう』と称する絵本の読み聞かせのボランティアの方に、楽しい話や『鬼のパンツ』の手遊びと絵本を読んでもらった。ウクレレで謡いながら進めるので、親しみが増した。その後、鬼に豆をまき自分の弱い鬼を退治した。鬼の顔にした昼食もよく食べた。
 - ・ 2月「保護者会」この一年のこども達の成長を振り返って、保護者の方の思いをたくさん話してもらおう事をねらいとした会にした。参加者も多くコミュニケーションもとれた。園への感謝の言葉もたくさん頂いた。欠席の保護者には後日参考資料・レジュメをお渡し説明した。
 - ・ 3月「ひなまつり」「春が来たんだ」の歌やパネルシアターで歌ったり、ひな祭りの話を聞く。2歳児が、虹の歌を手話を交えて披露した。製作した雛人形を大切に持ち帰った。
行事食はちらし寿司・おやつは雛あられ・カルピスも大喜びだった。
 - ・ 3月「うさぎ組親子遠足」2歳児親子と担任・園長引率で品川水族館に行った。イルカ・あざらし・水中ショーも見ることができ満足できた。お弁当は、一室貸切の場所で、親子でゆっくり食べることができた。天気にもよるが、移動がない分室内での食事の方がいいのか、次年度の検討とする。
 - ・ 3月「とどらあさよなら会」小ホールで実施する。
参加者・・・子ども・保護者他 91名、来賓1名、職員他 11名 計 103名
こども達、全保護者、職員みんなで2歳児の卒園・転園・進級のお祝いとお別れ会をした。
卒園児11名・転園児2名と進級児も周りのあたたかい視線を受け、落ち着いていて、アットホームな会となった。特に2歳児は、自分の手でしっかりと証書を受け取る姿に大きな成長を感じた。
風船を持ちながら、虹の橋を渡り、みんなの前を堂々と歩き感動した。
- ◎ 今年度は心身症等の保護者数名への配慮や、異動・出産・退職等で職員の出入りがあり、クラスを越えて、全園児の状態や保護者対応の連絡を、職員同士より蜜にしながら保育する一年だった。
臨時職員（アルバイト）の援助で進めることができた1年でもあった。
- ◎ 行事等、いつも保護者の出席が良く、家族みんなでの参加も多いので、年齢は小さいが、楽しい雰囲気を経験させてあげることが出来て感謝している。